

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 25日現在

機関番号：10101  
研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2009～2011  
課題番号：21520122  
研究課題名（和文） 近世・近代の「菅公イメージ」形成と変容の研究  
研究課題名（英文）  
The research on the formation and the change of an image of "Kanko" (Sugawara Michizane)  
研究代表者  
鈴木 幸人（SUZUKI YUKITO）  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：30374169

## 研究成果の概要（和文）：

近世、近代の各ジャンルの「菅公イメージ」データ収集につとめた。それをとおして天神信仰に特有の在地縁起絵のうち、「太宰府系天神縁起絵」の作品集成、分析を行い、満盛院本掛幅縁起絵の全場面の解読を試みた。また松浦武四郎の天神信仰の分析から、天神信仰の神格の形成について新たな視点からの考察を提案した。そのほか、ギメ美術館本縁起絵巻について、伝来と様式上の特色を明らかにすることができた。

## 研究成果の概要（英文）：

I strove to collect the image of "Kanko(Sugawara Michizane)" in many genres of modern times. And I tried to decipher of all scenes of the paintings of several episodes in local area in the possession of the Manjo-in temple, Dazaifu Tenjin. Moreover, according to the analysis of Matsuura Takeshiro's Tenjin faith, I proposed a new viewpoint about the formation of the divinity of the Tenjin faith. In addition, I could clarify the introduction and stylistic feature of the Musee Guimet's scroll paintings.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：芸術学、美術史

科研費の分科・細目：芸術諸学

キーワード：天神信仰、在地縁起、掛幅縁起絵、太宰府、松浦武四郎

## 1. 研究開始当初の背景

天神信仰は、菅原道真（845-903、平安時

代の文人・政治家）を祭神に、平安時代から現代にいたるまで信仰を集めてきたのは周知のとおりである。つとに林屋辰三郎氏らの

指摘があるとおり、「神格の変容」と「在地縁起の成立・展開」に見られるような、他の神祇信仰に見出しがたい独自性をもち、地域ごとに特色ある信仰形態を生みながら、享受層を変化拡大させた。

こうした展開を見せる天神信仰が生み出した多様な造形（ヴィジュアル・イメージ）については、これまで個別ジャンル（絵巻、神像、画像、渡唐天神像…）の研究がなされ、データの蓄積がなされてきた。しかし、その総合的な研究は近年ようやく緒に就いたところであるといえる。そうした試みの一例として、研究代表者も関わった特別展「天神さまの美術」（平成13年度、東京国立博物館他）の成果が挙げられる。

そこで研究代表者は、こうした研究の継続発展をめざし、これまでの調査を踏まえて、「菅公イメージ」変遷の総合的研究（平成18～20年度科学研究費補助金課題研究）を実施した。同研究の成果として、これまで未紹介の天神縁起絵の調査、分析、紹介を行った。「在地縁起（ご当地説話）」に関する天神縁起絵の解明に一定の成果があったと思われるが、まだその全貌を把握するにはいたらず、データ収集も不十分であるので、同研究の継続的な発展が望まれた。

くわえて、同研究によって新たな問題が見出された。それは「近世から近代にかけての菅公イメージの変容」の問題であった。いうまでもなく、現在の私たちの菅公（菅原道真、天神）に対する視点は、近代のそれに与るところが大きい。すなわち、第一に、近代の菅公イメージがどのように形成されたか。第二に、それは近世の菅公イメージから何を継承しどう違ってきたのか。これらは「菅公イメージ」変遷を把握する上で、議論の前提となる重要な点でと考えられた。しかし管見の及ぶところ、かかる問題は人文学のいかなる分野においても考察されていないと思われる。これらについての考察は、当該問題解明ばかりでなく、天神信仰史および研究代表者が構想する天神信仰の造形史へ寄与するところ大であると考えられたのである。

## 2. 研究の目的

研究代表者は、天神信仰の他の神祇信仰に見出しがたい特色である「神格の変容」と「在地縁起」に注目し、「菅公イメージ」、つまり菅原道真が、美術、演劇、文芸、伝承等において、どのように語られ、造形化されてきたのかについての総合的な考察を目標としている。ここから信仰と造形の関連という芸術史、美術史、文化史に重要な問題群への視点獲得がめざされることにもなるからである。

本研究課題「近世・近代における「菅公イメージ」形成と変容の研究」は、かかる研究の全体構想の中で、基盤的かつ重要な部分を担うものであり、とくに、「近世から近代にかけての菅公イメージの変容」を把握することが重要課題として設定された。

天神信仰の最大の特色は「神格の変容」と「信仰の地域的磁場の形成」とであると考えられる。それを眼に見えるかたちに明示する「在地縁起」および「天神道真の姿」の成立と変容に注目し、「菅公イメージ」が、どのように語られ、造形化されてきたのかを分析、考察したい。

これまでの研究で在地縁起における菅公イメージの成立について一定の成果を得ることができたが、さらに「近世から近代にかけての菅公イメージの変容」の把握を課題とする。そのため以下の研究・考察を行うこととする。

とくに研究代表者がこれまでも収集してきた「菅公イメージ」の「ヴィジュアルデータ群」を分析することをとおして、近世から近代の菅公イメージ形成と変容のあとづけを行うこととしたい。そのときの、次の観点が重要となると予想される。

ひとつは、近代の菅公イメージは、「近世のご当地縁起」（なかでも「道明寺説話」、「綱敷天神説話」）を足がかりとして形勢される、と考えられることである。このような観点から、以下の分野の作品を対象としてデータを収集、調査分析を行う。その分野は、近世の天神縁起絵（在地説話を含む）、文芸（読本、絵本、講釈）、演劇（浄瑠璃、歌舞伎、とくに「菅原伝授手習鑑」の上演形態と演出の変容は当該研究に重要な視座を与えるはずである）、近代絵画（これまで菅公・菅原道真を主題としての研究は管見におよばない）である。またとくに、近代の教育出版物（教科書、絵本）は、「忠臣・道真」のイメージ形成（すなわち近世からの変容）に最も大きな影響のあるものと考えて、そのデータ収集につとめたい。（これも現在まで未開拓の領域といえる。）

以上の作品群についての考察から、近世・近代の菅公イメージを明確にするとともに、その間の差異について、その様相および背景となる思想を指摘することが、本研究の達成すべき事柄である。

## 3. 研究の方法

研究目的で述べた調査の対象作品について、資料収集、データ収集、現地調査、読解・分析を行う。

#### (1) 資料データ収集、現地調査

未調査の新たな資料の存在が知られるようになった作品の調査。奈良絵本・てんじんき、長崎八幡社本・天神縁起絵巻、福岡個人所蔵・掛幅縁起絵などの新出の作品があり、現地調査を要する。

また掛幅形式の天神縁起絵で、118 場面を数える太宰府満盛院本天神縁起絵について詳細な再検討の必要がある。

#### (2) 関連書籍・図版資料の調査・購入

本研究課題に関連する書籍・資料の調査を行い、収集購入する。天神縁起絵、天神画像の写真図版を掲載する書籍類。天神信仰史および菅原道真に関わる研究書、等。近代の天神縁起絵（物語）、天神画像の写真図版を掲載する書籍、教科書など。

#### (3) 収集資料の分析、解読

「在地縁起」（在地説話）データの収集・分類。各地に伝えられる菅公の在地縁起を収集し、分類する。先行研究（山中耕作『天神説話のすべてとその信仰』等）を参照しつつ、天神信仰の「在地縁起」（ご当地説話）の特質を把握する。とくに「道明寺説話」、「綱敷天神説話」、「太宰府説話」について、「掛幅形式の天神縁起絵」との関連から考察を行う。

おもに近世の在地縁起（在地説話）関連の作品、とくに「道明寺説話」、「綱敷天神説話」にかんするデータの収集・分析を行う。

近代の絵画や物語、とくに絵本、教科書などにおいて「忠臣」としての菅公イメージが形成されていく様相を調査分析する。

これまでに得られたデータと知見に基づきつつ、さらに国文学、芸能史、宗教学、文化史分野の諸資料の収集に努める

### 4. 研究成果

#### (1) 研究成果の概要

①本研究課題の実施期間にわたって、各分野（縁起絵巻、天神画像、神像彫刻、御伽草子、奈良絵本、歌舞伎、講釈、近世絵本…）にわたり、新出資料もふくむ「菅公イメージ」データの収集を行うことができた。

②それらをふまえて、とくに「在地縁起」の代表的な例でもある「太宰府系天神縁起絵」に関して、作例を収集、分析し、その系譜、

位置づけを試みた。これまで詳細な分析のできていなかった満盛院本縁起画伝について解説紹介を試みた。後述する太宰府系天神縁起絵を集大成した図録の刊行は、当該研究分野に重要な新知見をもたらすことができたと考える。

③また在地説話の分析考察から、菅公の神格が多様であること、すなわち荒神、怨霊、文神、忠臣という複数の側面をもつこと、ならびに菅公が客人（マレビト）の機能をもつことによって（これが在地縁起の契機ともなると考えられる）、それらの諸神格は互いに排除せずかえって支えあってひとつの神格を形成する。かかる他に類を見ない天神信仰の神格のあり様、またその造形化と流布の様態が認められるにいたった。

以上こうした指摘は従来看過されてきたものと思われ、今後の天神信仰研究に新たな視座を提供するものであると確信する。

#### (2) 未見資料等の調査、収集資料の分析

①多様な分野における「菅公イメージ」データの収集に努めているが、そのための実地調査は、2009 年度に東京、関西方面等、計 5 回、2010 年度に京都、東京方面、計 4 回、2011 年度には山口・福岡、関西、東京方面、計 4 回行った。（以下、主要な調査作例について記す。）

常盤山文庫所蔵の北野天神縁起絵巻等の調査（2009 年 9 月、詞書の書込み、錯簡、絵の様式の差異等を詳細に実見調査し、その特色を確認することができた）

現大阪天満宮所蔵の天神縁起絵屏風（2009 年度 11 月、新出資料、比較的制作時期の下がる 19 世紀の作例ではあるが、類例の少ない屏風絵の天神縁起絵について実見調査することができ、場面選択、図様に、他に見受けられない特色を確認した）

島根県益田市萬福寺所蔵の掛幅天神縁起絵（2009 年 11 月、「太宰府系天神縁起絵」の作例と確認することができ、後述の『太宰府系天神縁起の世界』に結実する研究考察に大きな足掛かりとなった）

与喜天神所蔵の天神坐像（2011 年 7 月、従来ほとんど公開されてこなかった作例であるため、実見の機会を得られなかったが、奈良国立博物館における特別展において実見することができた）。

②近代の文芸・造形作品における「菅公イメージ」の資料収集についても着手した。

近代の学校教育現場での菅公像について、おもに京都市内学校所蔵品を調査した（2010 年 4 月）。

近代の菅公像の代表的な作例とされる渡辺長男作銅像菅公像（2010年10月、昭和5年制作、東京高尾天神社、御衣公園所在）等、近代彫像についてもデータ収集に努めた。

今後の研究へ向けての準備作業と位置付けて、近代文芸における「菅公イメージ」データの収集に着手した。そのなかで、谷崎潤一郎著『少将滋幹の母』における『大鏡』時平伝の利用については従来も指摘されていたが、それが所謂「丁類」の天神縁起の文言であることが確認できた。

### ③天神縁起絵巻、版本等の詞書翻刻

実見調査した縁起絵巻や版本類の詞書の翻刻作業を引き続いて行っている。（対象作品は天満宮御伝実記、天満宮実伝図会、天神一代記図会、天満宮御伝記略等）

### (3)「太宰府系天神縁起」の研究

本研究課題の重要な成果として、下記2件の論考、書籍を執筆発表することができた。

これは近世の在地縁起（在地説話）をめぐる諸問題の研究の一環であり、とくにこれまで存在が知られていなかった「太宰府系天神縁起絵」についての集成を果たし、同縁起絵が在地縁起としても重要な位置づけであることを論じた。

とくに研究代表者が編集に参画した『太宰府系天神縁起絵の世界』（2012年3月、太宰府顕彰会発行）は、近年の調査で発見した掛幅形式縁起絵の作例も多数紹介されて、太宰府独自の天神信仰にもとづく縁起絵の特質と系譜をはじめ本格的に紹介できたもので、今後の同様の研究における重要な基点になると思われる。

### ①菅生天満宮所蔵の掛幅形式天神縁起絵について

まず、従来、その詳細が未紹介であった近世天神縁起絵である菅生天満宮 12幅本（大阪府堺市）をとりあげ、太宰府天満宮所蔵 12幅本（延寿王院本）との関連性、および菅生の在地説話にもとづく信仰から生まれた側面に注目して、その形式と内容との関連、およびその在地性を分析した論考「菅生天満宮所蔵・掛幅形式の天神縁起絵について」（武田佐知子編『太子信仰と天神信仰 一信仰と表現の位相一』、思文閣出版、2010年5月15日発行所収）を執筆発表した。

なお、本論考および益田市萬福寺本縁起絵の発見が、次項に述べる「太宰府系天神縁起絵」研究への糸口となった。

### ②「太宰府系天神縁起絵」について

本研究課題 2009年度の調査で、島根県益田市萬福寺において掛幅形式の天神縁起絵（紙本着色、10幅、18世紀）を見出すことができた。同本は、①に述べた菅生天満宮所蔵 12幅本、および太宰府天満宮所蔵 12幅本（延寿王院本）との密接な関連が指摘できた。その存在は九州地方に伝来する個人所蔵の天神縁起絵諸本（未紹介）とともに、「太宰府系天神縁起絵」と呼びうる掛幅形式天神縁起絵群の存在を確かなものとした。従来研究の及ばなかった領域であり、近世における天神縁起絵展開への視野が大きく開けうるものであると確信された。

こうした状況をうけて、太宰府天満宮文化研究所他と協力して、太宰府系天神縁起絵の集大成と紹介を目的とする『太宰府系天神縁起絵の世界』（2012年3月、太宰府顕彰会発行）の制作の企画が進められた。企画当初から制作に関わり、同書の執筆構成を担当し、全体総括も担当した。ちなみに執筆項目は、第1章（天神縁起絵の系譜と展開）、第2章1節（太宰府系天神縁起の系譜概説）、同5節（満盛院本・延寿王院本天満宮縁起画伝からの展開）、第3章1節（天神縁起満盛院本絵解き、執筆者共同担当および総括）、同2節（天神縁起満盛院本及び天神縁起絵場面比較）、第4章（太宰府系掛幅縁起絵全幅図版）、あとがき、である。

『太宰府系天神縁起絵の世界』では、太宰府系天神縁起の系譜を初めて詳細に分類し、明確な位置づけを試みた。すなわち、太宰府の古縁起亡失に伴うものとして江戸初期に光信本写の元和本が制作され、儒学的立場から貝原益軒によって道真公の事跡録として、史実重視の太宰府天満宮故実が作られるが、それに対応する形で太宰府地域の独自性を強調する元禄本縁起が成立したという状況を確認した。その上で、近年見出された対馬本縁起絵巻は元禄本と太宰府天満宮故実の両方の要素を受け継ぐものとして位置づけられること、一方で元禄本に準拠する掛幅形式の縁起絵として延寿王院本が制作されたこと、かかる状況で、満盛院本は元禄本縁起にもとづきながら、さらなる独自性を内容にも絵画、図様にも盛り込んだと結論づけた。またさらにその後の展開としての菅生掛幅本、益田萬福寺本、九州の個人所蔵諸本を位置づけることができた。

なお満盛院本は、天神縁起絵作例中最多の場面数、118場面を有する掛幅縁起絵であり、この全場面の詳細な解説は、同書において初めて試みられたものである。かかる点からも、同書は、今後の天神縁起絵研究の基礎資料として極めて重要な基点となるものと信じる。

#### (4) 在地縁起絵と松浦武四郎の天神信仰について

山口県立美術館『松崎天神縁起絵巻七百年記念 防府天満宮展図録』（2011年9月発行）に「在地縁起絵と天神信仰」と題する論考を、これまでの調査成果を盛り込んで執筆して、天神信仰における在地縁起絵の意味、および幕末期の文人・松浦武四郎の天神信仰の意味について論じた。

同論考において以下の従来指摘されなかった観点を提案できたことは重要であると思われる。

第一には、防府圏の天神縁起絵の在地縁起としての特色であるが、とくに、第二には、松浦武四郎が関係した西国の天満宮、菅公所縁の土地についての考察から、左遷途上の菅公を「客人としての菅公」と捉えるという新たな視点を獲得することができたことである。この点については、これまで議論されていないものであり、「菅公イメージ」形成に重要なものと認められるので、今後さらに考察を展開していきたいと考えている。

#### (5) ギメ東洋美術館所蔵の大政威徳天縁起絵巻について

ギメ美術館本の京都府長岡京市の関係と天神縁起絵の系譜における同本の位置づけについて論じた。これまで十分でなかった同本の全容の紹介がめざされたものである。

まず、その伝来について、長岡京市史編集室と協力して奥書、紙背墨書の解読にあたり、中世の当地を支配した中小路氏に関わるものであり、現在の長岡京市に伝来したことを確認した。

つぎに各段の内容確定が試みられ、図様については他の縁起絵との比較検討がなされ、詞書については、本文は甲類縁起にもとづきながら冒頭に丁類の序文を置き、本文中にも独自の構成を示すなどの特色の検討がなされた。

また同本の絵の様式が、所謂天神縁起絵の初期図様を用いながらも、描法には室町時代大和絵の画派である窪田派の様式との共通性が確認されることを指摘した。

以上の点で、ギメ美術館本が、天神縁起絵の系譜においても重要な位置を占めること、すなわち、いまだその実態が把握しがたい室町時代における天神縁起絵の展開の混沌とした、しかし活力ある様相をよく示す貴重な作例ということができていることを確認した。

この考察は、『長岡天満宮資料調査報告書 美術・中世編』に「ギメ東洋美術館所蔵北野天神縁起絵巻について」（仮題）として掲載されることになっている（同書発行は 2012

年秋が予定されている）。

以上のように、研究課題の実施をとおして、多数の未紹介資料を実見、調査、分析、紹介することができ、それによって天神在地縁起の形成と特質、天神信仰における神格の形成と特質に新たな光を当てることができたと思われる。その意義は当該研究分野における新知見と考察の新たな視座をもたらすことになったと確信するものである。

#### (5) 今後への展望

当初の研究目的のうち、近代の菅公イメージ研究が十分に果たすことができていない。そのため引き続いて、以下のように研究を進めていきたいと考えている。

①まずは、調査済みながら紹介が果たせていない資料について早急に分析を進め論考を発表したい。

②つぎに、在地説話のうち、「明石駅長説話」、および「綱敷天神説話」についての考察を行わねばならない。本研究課題でその形成と特質が明らかになりつつある「在地縁起」ではあるが、「道明寺鶏鳴説話」と並ぶ左遷途上説話の重要なものであるこれら説話の分析は、これまで十分には行われてきたとは言えない。道明寺説話との対比、比較の観点から両者を解き明かすことが必要と考える。

③さらに、近世版本や演劇に現れる菅公イメージの調査分析へ研究を進めていくことが望まれる。なぜなら、近代において、近世で培われた「菅公イメージ」の特定の部分が拡大される傾向が十分に予想されるからであり、「菅公イメージの近代」についての考察なくして、本研究課題の最初の目論見は達成されないことが明らかとなったといえるからである。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計3件）

①（共著）太宰府系天神縁起絵の世界、2012年3月30日発行、財団法人太宰府顕彰会、鈴木幸人、第1章（天神縁起絵の系譜と展開、p.9-36）、第2章1節（太宰府系天神縁起の系譜概説、p.38-42）、同5節（満盛院本・延寿王院本天満宮縁起画伝からの展開、p.63-70）、第3章1節（天神縁起満盛院本 絵解き、共同担当及び総括、p.71-152）、同2節（天神縁起満盛院本及び天神縁起絵場面比較、p.151-161）、第4章（太宰府系掛幅縁起絵全幅図版およびあとがき、p.162-169）の執筆構成担当および全体総括担当

②（共著）山口県立美術館「松崎天神縁起絵巻七百年記念 防府天満宮展」図録、2011年9月22日発行、鈴木幸人、「在地縁起絵と天神信仰」、p.100-111

③（共著）武田佐知子編『太子信仰と天神信仰 一信仰と表現の位相一』、思文閣出版、2010年5月15日発行、鈴木幸人、「菅生天満宮所蔵・掛幅形式の天神縁起絵について」、p.295-326

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 幸人 (SUZUKI YUKITO)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：30374169

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし